

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070703451
法人名	株式会社エルゼ
事業所名	愛好の里グループホーム青春・明苑
所在地	福岡県北九州市八幡西区馬場山東1丁目26番20号 電話 093-618-7831

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成19年11月14日	評価確定日	平成19年12月10日

【情報提供項目より】(平成9年 10月 29日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 11月 1 日		
ユニット数	1	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1 階建ての 1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含)	94,500 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日 1,550円			

(4)利用者の概要 (10月 29日現在)

登録人数	8名	男性	1名	女性	7名	
要介護1	4	要介護2	0			
要介護3	3	要介護4	1			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	86.5 歳	最低	68歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	千代クリニック 八幡厚生病院 福岡新水巻病院 三箇歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

愛好の里グループホーム青春・明苑は、隣接する池と公園の緑が豊かな住宅街の一角に位置している1ユニットのグループホームである。母体法人はクリーニングなど家政を業としており、本業からのノウハウを介護に活かしたいと代表取締役(会長)の居所である馬場山に開設している。隣住人から家庭菜園のおすそ分けをいただいたり、盆踊りなどの地域の行事に前もって入居者用のイスが準備してあったり、入居者が地域に暮らす仲間として受け入れられている。ホーム管理者が町内会の副会長を務め、毎月入居者と一緒に市政便りの配布を行うなど地域の一員としての役割を果たすことが入居者の喜びにもなっている。明るい色調の平屋のゆったりとした間取り、バリアフリーな共有空間、眺めのよい浴室、スロープやウッドデッキの設置された開放的な前庭など、整った住環境の中で入居者はゆったりと暮らしている。住宅街のため買物などの外出は行にくい、交通車量の少なさから、庭先や近隣の公園に安全に出かけることが出来、鍵を掛けないケアが実践できている。開設から3年目を迎え、職員は「愛情をもって明るく、楽しく共に笑える毎日を過ごします。」という理念の下、日々話し合いながら入居者の望む暮らしの実現に取り組んでおり、共に支えることが実感できる様になった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念の共有、共有空間での居場所の確保のため畳スペースを作ったり、愛好だよりの発行など取り組んでいる。日常的な外出支援についても、職員の取り組みで近隣へ出かける機会を設けたり、食材の買物と一緒に出かけたりと工夫している。権利擁護成年後見の活用、職員の人権研修、医療との連携は継続課題である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に全職員で取り組むことは出来なかったが、管理者を中心に作成し、内容については全職員にミーティングで伝達している。代表者は開設者研修の受講を予定している。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	2ヵ月ごとの運営推進会議では、地域包括支援センター職員、入居者家族、近隣住民などが参加し、前回の外部評価の結果の報告、行事の予定、職員の採用などを報告し、改善点・意見などを検討している。実施要領、議事録も整備されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	入居者の日々の暮らしぶりや状況を電話や来訪時に伝えると共に、「愛好だより」を毎月発行している。個別の金銭出納帳はあるが家族に確認印はとっていない。家族会の設置はないが、ホームの主催するバーベキュー大会などで家族相互の交流を行っている。運営推進会議には家族が参加し積極的に意見を述べている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に参加し管理者が副会長を務めている。市政便りの配布や町内会費の徴収など入居者と共に近所に訪問することもある。ホームの行事を地域に呼びかけることはまだないが、ソーマン流しや盆踊りなど地域の行事に参加している。代表者が地元出身のため日ごろから近所の方と挨拶を交わしたり、敷地内にある観音様に近隣住民が参拝に訪れたり、家庭菜園で取れた野菜の差し入れに来ることがある。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛情をもって明るく、楽しく共に笑える毎日を過ごします」の理念が共用空間に掲示してあるが、パンフレット、運営規程、重要事項説明書に今回の法改正の「地域との交流の下、」は明記されていない。	○	パンフレット等に「地域との交流の下・・・」を併せて明記して頂きたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はミーティングや勤務交代時に職員と理念を唱和し確認し合っている。日々のケアの中で声かけや態度に留意し、支えあう関係を目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、管理者が副会長を務め、市政だよりの配布など入居者とともに出かけていくこともある。地域にホームの行事への参加の促しは行っていないが、地域のソーマン流しの行事に参加したり、盆踊りには入居者が参加しやすいように椅子の用意をしてくれたり、相互交流が出来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理念の共有や町内会の参加など、前回の外部評価の改善点の行えるところから取り組んでいる。職員は評価を行うことでホームの改善点が見つかり質の向上につながっていると実感している。自己評価は全職員で取り組むことは出来なかったが、管理者を中心にミーティングで共有している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、家族、地域包括支援センター職員などの参加で定期的に開催し、行事の報告やホームでの様子など報告している。実施要領、議事録が整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は運営推進会議で地域包括支援センター職員と連携を取るようになっている。行政からの相談や訪問はなく、区役所に訪問した際に相談している。外部評価結果について、行政に報告している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	地域福祉権利擁護事業を利用している入居者はいいるが、研修会参加や研修実施がなく、パンフレットは整備していない。	○	研修会の参加やパンフレットの整備を行い、入居の早い段階から入居者の権利擁護が行われていることが伝わるように、記録の整備をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族訪問時及び愛好たよりで入居者の暮らしぶりや職員の採用を伝えている。預かり金は出納帳に記録し、家族に報告しているが、家族が確認した記録がない。健康状態について家族訪問時説明しているが記録が整備されていない。	○	協力医療機関での受診の結果の報告の記録や、金銭の出納の透明性を図るため家族確認の記録をお願いしたい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、家族会の設置はしていないが、夏のバーベキュー大会に家族の参加があり、家族同士が交流する機会を設けている。また運営推進会議で家族からの積極的な意見があり、運営に反映するようになっている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単独で開設しているため職員の異動はないが、離職を抑えられるように、運営者は職員と面談や食事会を開催して意見や要望を取り入れる仕組みを作っており、相談しやすい雰囲気を作るよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	採用時年齢や性別の排除は行っておらず、雇用契約書が取り交わされている。就業規則も整えてあり、有給休暇も取れている。職場と家庭の両立が行われやすいよう休日の要望もできるだけ職員の意向を取り入れ、残業がない様に配慮しており、職員の健康診断も行われている。休憩室は特に設置していない。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	身体拘束防止の指針をホーム内に掲示し、契約書にも明記している。身体拘束防止マニュアル、やむを得ず抑制する場合のマニュアルも整備している。日々の業務日誌で身体拘束を行っていないかをチェックしている。人権学習の研修会に参加し、伝達講習を行っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政開催の介護サービス従事者研修に、職員が交代で勤務時間内に参加できるようにしている。年間の研修計画が作成され、新任職員には常勤者と2人夜勤でトレーニングしている。スーパーバイザーはいないが、管理者が職員の相談に応じている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に加盟していない。他のホームとの交流や研修会などは行われていない。	○	グループホーム協議会の加入や他のグループホームとの交流や相互訪問など検討してみたいかでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居の仕組みを設けている。入院先や自宅に訪問し面談を行って入居するようにしている。入居当初は2人夜勤で対応し日中もスタッフが個別対応し、外出につきあったり、不安の軽減に努めている。ご家族にも初期には毎日訪問していただくようお願いすることがある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの暮らしの中で、食材の買出しや洗濯物干し等、職員と入居者が共同で行う場面が多くあり、職員は入居者からいたわりや元気を頂いていると感じており、共に過ごす時間を大切に和やかな暮らしができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や職歴のアセスメントは行っている。利用者の生活リズムの把握や行きたい場所、行いたい家事趣味などは把握できているが、居宅サービス計画第3表に記載できていない。	○	利用者が日々行っている家事や、仏壇のお水換え、お花の先生をするなどの把握した生活習慣を居宅サービス計画第3表への記載し、チームでケアできる様にして頂きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。職員は入居者の変化に気づいた時点で、介護支援専門員に報告し、介護計画の変更を活用している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しや入退院時の見直しなど行われている。見直した介護計画は入居者や家族に説明し了承を得ている。見直しの際入居者の家族との話し合いは電話などで行っているが記録を整備していない。	○	サービス担当者会議への家族の参加や、見直しの際家族の意向を確認し、介護計画書第1・2・3表への記載をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	単独で開設しているため、特にはないが、自主サービスとして受診に付き添ったり、個別で大型スーパーに買物に出かけたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から毎月2回の往診がある。診察後、家族への説明は電話で行うことが多い。職員間では申し送りノートで受診の結果を情報交換するようにしている。協力医療機関以外の受診は、なるべく家族に同行してもらうようにしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状の入居者では終末期を検討したことがないため、利用者が重度化した場合や終末期のあり方に関して入居者や家族、主治医と話し合ったり、指針を設けたことはない。	○	重度化や終末期に向けた方針を整備し、入居の早い段階で一度意向を確認していただきたい。また随時入居者・家族・主治医と終末期等のあり方を検討し、記録の整備をお願いしたい。職員に看護師がいないため、直接主治医とのやり取りとなってしまうことも考えられます。夜間や救急時の訪問看護との連携などを運営推進会議で検討してみたいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者の人権に配慮しながら接している。運営規程や契約書で個人情報の保護について説明し、同意を得ているが、個人情報の保護に関する指針の掲示がなく、研修の参加記録もない。	○	事業所内に個人情報保護に関する指針の掲示をお願いしたい。人権やプライバシーについて研修を実施し、尊厳の保持に役立ててほしい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングが開放的で過ごしやすいか、ほとんどの入居者が一日の大半をリビングで過ごしている。ホームの一角に祭られた観音様にお茶を供えてお参りすることを日課としている入居者や寺社などの参拝に家族と外出する入居者もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分の箸、茶碗、コップで食事をしている。食材の買物や調理、後片付けなど能力に応じて一緒に行っている。ホームの庭で栽培した野菜が食卓に上がることもある。回転すしに出かけるなど外食を共に楽しむこともある。日ごろは職員は同じ食卓で同じ食事を食べながら、さりげなく支援をしている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきに午後から入浴している。夜間は行っていない。入浴拒否者に対しては、無理強いをせず、コミュニケーションを図りながら入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お茶、お花の先生をしていた入居者が腕前を披露する場を作っている。入居者と雑巾を縫って、月に一度の「ピカピカデー」を準備の段階からみんなで楽しんでいる。地域の盆踊りには入居者が着付けを行い、職員と共に浴衣で参加しており、炭鉾節を楽しそうに踊っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自発的に外出する利用者が少ないため、入居者と食材の買物に出かけるようにしている。近くの公園にあるお稲荷さんにおまいりに行ったり、散歩するようにしている。毎月の行事計画があり、外食に行く機会も設けている。日曜は外出するようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、リビングからもウッドデッキに出られるようしている。入居者は気軽に庭に出て花を眺めたり、敷地内の観音様のお参りをしたりしている。職員は無理に付き添わず、開放的な窓から入居者の行動を見守っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害時の食品等の備蓄はない。地域の交番に理解や協力のお願いはしていないが、年に一度、地元の消防団、消防署と避難訓練を行っている。	○	災害時マニュアルの整備、緊急時災害時連絡体制の周知、災害時の備蓄をお願いしたい。平素より近隣の住民や交番との連携を図り、入居者の安全に対する配慮をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を有する職員が週間献立を立てて、バランスや嚥下状態に配慮している。食事中に、食材を細かくしたりして食事量が確保できるよう工夫をしている。水分摂取は定期摂取できる分は記録していないが、水分制限に指示がある場合は記録している。体重測定は 10日ごとに行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ガラス張りの浴室やリビングからの景観は素晴らしく、時間の経過や季節の移り行く様子が感じとれる。台所での食事の準備や後片付けの音、生活臭も気にならず、入居者はゆったりとしたソファに座り気持ちよさそうにくつろいでいる。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタタミ等、入居者の生活習慣に合わせた居室作りを行い、馴染みの物や位牌、家族の写真等を置き、居心地の良い居室になっている。		